

日本共産党市議団

小野寺幸恵・渡辺満
工藤良一・富岡隆

行政報告

渡辺 満 議員

▼駒澤大学の移管について

駒澤大学が市に相談せずに京都育英館に経営移管したことは、市と大学とで締結した協定書の「信義誠実の義務」に反する行為だと指摘しました。市長は「遺憾である」との認識を示しました。



また、駒澤大学開学時に譲渡及び貸与した市有地について、「一度市に返還させるべき」と指摘。部長は「議員の指摘は当然」とし、市・駒澤大学・京都育英館の3者で協議する考えを示しました。

代表質問

小野寺 幸恵 議員

▼IRについて

IR(カジノ)を含む統合型リゾート)について反対の立場で



質問し、「IRはカジノで負けた人が多いことで成り立つ。仮に、食べていける苦小牧」になったとしても両

手を上げて喜べるのではない」と指摘しました。市長は「IRは様々な施設が一体となったもので、単体では採算がとれない」と説明し、「リスクを最小化したい」と答弁しました。

また、市民の声を把握するために住民投票を提案しましたが、その考えがないことが示されました。

▼保育所の増設について

当市の保育所数は児童千人あたり2・77ヶ所(北海道は4・5ヶ所)であり、潜在的待機児童が全道で2番目に多い現状から、北海道なみの保育所数を目標に設定することを提案し、「総合計画に設定したい」との答弁がありました。

▼雇用助成金の改正について

進出企業に対し支給している雇用助成金に正規雇用を条件にすることを提案。「制度改正の検討を行いたい」と答弁がありました。

▼無利子の奨学金制度について

苦小牧駒澤大学の支援と人口減少対策から平成28年に提案していた無利子の奨学金制度創設について、京都育英館に移管されても実施する考えはあるのか質問しました。部長は「平成30年4月の入学者にも適用できるように進めている」と答弁しました。

▼自宅での看取りについて

市のアンケートで「自宅で最期を迎えたい」と40%回答していることを受け、医師会との協議など、看取りの環境整備を求めました。部長は「看取りができる医療機関は市内に3ヶ所」と説明し、「医師会との連携が不可欠」と、体制づくりを進めると答弁されました。

▼除雪について

今冬の雪の現状から「雪害だという市民の声が多い」と指摘し、想定外の雪への対応を求めました。部長は、「今回の課題や教訓を生かし、特殊気象による被害が報告された場合は、関係部署と連携した対応を考えた」と答弁しました。

予算委員会

富岡 隆 議員

▼後期高齢者医療会計

所得の低い高齢者支援として国は「特例軽減」を実施してきましたが、制度見直しによる影響について質問しました。



担当部から「所得の低い方の特例軽減は当面維持されるが、一定の収入のある方は保険料が上がる」と答弁。

2,739名に影響があるとし、その内、572名の保険料が3倍になることを明らかにしました。

▼介護保険事業会計

介護従事者の人材確保の重要性を質問。29年度に資格取得のための研修費用として1人5万円を限度に補助(30名を対象)することが示されました。

工藤 良一 議員

▼卸売市場会計

ダンボールなどを回収するための設備を青果事業者が用意したことを問題視し、「本来市が用意すべきもの」と指摘しました。担当部は「今後、市場運営会議で話し合っていきたい」と答弁しました。



文教経済委員会

▼ナナカマド教室について

戦中・戦後の混乱期に就学できなかった人を対象に「学び直しの場」として始まったナナカマド教室に、いじめなどで不登校になった若者も対象にすることを提案してきました。29年度から夜間の部も開設することになったことを受け、腰を入れた継続事業にすることを求めました。